

10歳以上 [タミフル×異常行動(A)] :
タミフルのリスクを最大見積もり

	異常行動(A)あり		異常行動(A)なし		異常行動・異常言動 項目A				
	Tm	To	Tm	To	(+)	(-)	計		
タミフル 投与あり	(a)	+ → + (8)	(f)	+ → - (2025)	タミフル	(+)	10	2223	2233
	(b)	+ → + (4)		(-)		7	907	914	
	(c)	+ → - (2)		計		17	3130	3147	
	(d)	- → + (0)	(g)	- → - (198)		オッズ比, 95%信頼区間			0.583 0.221~1.536
	(e)	- → - (0)		χ ² 検定, P値			1.221 0.2692		
タミフル 投与なし	(h)	- → + (3)	(j)	- → - (907)					
	(i)	- → - (0)							

Tm: time of medication
To: time of onset

現在まで得られた結論と考察 (2)

主要な集計結果

> 異常行動に対するタミフルの crude-OR

全症例 実データ 0.38(0.34-0.43) リスク最大見積り 0.50(0.44-0.56)

10歳以上 実データ 0.52(0.39-0.67) リスク最大見積り 0.65(0.50-0.84)

> 異常行動(A群)に対するタミフルの crude-OR

全症例 実データ 0.41(0.22-0.78) リスク最大見積り 0.577(0.32-1.06)

10歳以上 実データ 0.47(0.17-1.29) リスク最大見積り 0.583(0.22-1.54)

今後の課題

> 交絡因子を調整した多変量解析を行う

→交絡因子に関する情報不足

> データ欠損による偏りの解釈を検討する

> 本研究デザインの長所と短所をより深く見極めることが必要である